

# 令和3年度 航空宇宙に関する活動等報告書



大樹町では、アジア初となる民間に開かれた宇宙港「北海道スペースポート」を4月から本格稼働し、「大樹発！航空宇宙産業集積による地域創生推進計画」を具現化、事業を推進するため、令和3年4月20日に大樹町と6つの道内企業等が出資して、「SPACE COTAN（スペースコタン）株式会社」を町内に設立しました（上写真中央）。

令和3年7月3日及び31日に、インターステラテクノロジズ株式会社（IST）が昨年の打上げ実験延期から約1年かけて全面改良を行い、2019年以来となる再度の宇宙空間（高度100km）到達を目指した、観測ロケット「ねじのロケット MOMO7号機」及び「TENGA ロケット MOMO6号機」の打上げ実験を実施しました（上写真左（7号機）、右（6号機））。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、日本宇宙少年団（YAC）大樹分団についての活動報告はありません。

ここから宇宙へ  
大樹

## 目次

1. 航空宇宙に関する出来事	1
2. 大樹町多目的航空公園	4
3. 講演・イベント	11
4. PR 活動	15
5. 銀河連邦	16

## 1. 航空宇宙に関する出来事

### ■「SPACE COTAN 株式会社」設立

大樹町は、「北海道に宇宙版シリコンバレーをつくる」という計画実現に向けて、アジア初となる民間に開かれた宇宙港「北海道スペースポート（HOSPO）」を4月から本格稼働させました。

2016年から2018年に、地域の関係企業や団体等で構成する「宇宙のまちづくり推進協議会」で協議、2019年に「北海道スペースポート構想」を公表し、その後、地域再生計画「大樹発！航空宇宙産業集積による地域創生推進計画」について内閣府の認定を受けました。

この計画を具現化し、事業を推進するため、大樹町と6つの道内企業等が出資して、SPACE COTAN（スペースコタン）株式会社（本社：大樹町内、代表取締役社長兼 CEO：小田切 義憲）を2021年4月20日に設立し、本年度から本格稼働しました。

SPACE COTAN(株)はHOSPOの運営の他、ロケットや宇宙旅行等を目的とした宇宙船（スペースブレン）の打上げ支援業務等をはじめ、航空宇宙産業発展に向けた研究・開発と地域創生を含むビジネス機会の提供をサポートする予定です。

大樹町はSPACE COTAN(株)とともに、HOSPOを世界の宇宙ビジネスを代表するインフラとして発展させ、宇宙産業に携わるすべての方々に快適なビジネス環境を提供することを目指します。



## ■スポーツ団体とのパートナーシップ協定締結

大樹町は SPACE COTAN（株）と共に、「北海道オール・オリimpiアンズ」、「株式会社コンサドーレ」、「株式会社レバンガ北海道」、「北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社」のスポーツ 4 団体と、「スポーツ×宇宙のまちづくり」に関するパートナーシップ協定を締結いたしました。

スポーツとスペース（宇宙）という異色のコラボレーションではありますが、それぞれの活動を通して地域を活性化させたいという共通の思いや、夢をあきらめずチャレンジすることの大切さ、子どもたちへの教育の視点など、お互いのビジョンと活動に共感し、今回の協定締結に至りました。

今後、相互に連携協働し、スポーツ振興と宇宙のまちづくりに取り組むことで地域の更なる活性化を図ることとしています。

### 【協定締結日】

「北海道オール・オリimpiアンズ」 令和 3 年 8 月 11 日

「株式会社コンサドーレ」 令和 3 年 8 月 13 日

「株式会社レバンガ北海道」 令和 3 年 8 月 20 日

「北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社」 令和 3 年 8 月 23 日



<北海道オール・オリimpiアンズ>



<株式会社コンサドーレ>



<株式会社レバンガ北海道>



<北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社>

## ■株式会社 CAMPFIRE とのパートナーシップ協定締結

大樹町は SPACE COTAN（株）と共に、株式会社 CAMPFIRE と、クラウドファンディングを活用した地域づくりと宇宙のまちづくりを目的としたパートナーシップ協定を締結いたしました。

個人の方でも北海道スペーススポーツプロジェクトに参加したい、応援したいという声を受け、より多くの方に宇宙開発に参加いただくべく今回の協定締結に至りました。

プロジェクトの一つとして、2021年12月10日から2022年1月31日までの期間で、北海道スペースポートの整備資金獲得を目的としたふるさと納税型クラウドファンディングを実施し、24人の方から約112万円の支援をいただきました。

【協定締結日】

令和3年10月1日



## ■企業版ふるさと納税 2021年度目標額達成、地方創生拠点整備交付金の採択決定

大樹町では、北海道スペースポート整備において企業版ふるさと納税等や地方創生交付金を充当する計画としており、その資金獲得のため令和2年度より募集しておりました企業版ふるさと納税寄附金につきまして、今年度の目標額であった5億円を達成いたしました。

なお、本取り組みへの2021年度の企業版ふるさと納税寄附金の合計は、2022年1月時点で延べ68社から、合計6億2,350万円となり、寄附の内訳としては、航空公園機能拡充事業：4億3,150万円、航空宇宙関連ビジネス推進事業：1億9,200万円となります。この件数及び金額は過去2年間（令和元年から2年）の全国の企業版ふるさと納税額と比較すると上位レベルの支援件数・金額となり、国内における宇宙産業への関心の高まりを象徴するものとなりました。また、2020年度、2021年度を合わせた累計の企業版ふるさと納税寄附金は、延べ74社から、合計7億1,700万円（航空公園機能拡充事業：5億2,430万円、航空宇宙関連ビジネス推進事業：1億9,300万円）です。

また、令和4年1月には内閣府へ地方創生拠点整備交付金を申請し、3月25日に事業採択の内示を受け、北海道スペースポート整備の計画が次の段階へ移行いたしました。

2022年度には新たなロケット射場 Launch Complex-1（LC-1）の実施設計及び土木工事の着工に加え、さらに既存滑走路の延伸に向けた実施設計を行う予定となっています。



(LC-1 イメージ図)

## 2. 大樹町多目的航空公園

### (1) 実験利用実績

令和3年度の大樹町多目的航空公園（JAXA 大樹実験場、IST ロケット射場（旧防衛省実験場）を含む）の利用実績を下表にまとめました。

今年度は、16 団体により 30 件の実験等が行われ、延べ 12,635 人が利用しました。

町では、実験や視察などによる宿泊や食事、レンタカー、航空運賃などの滞在に関わる費用を試算した結果、昨年度の約 2 億 9,400 万円から前年比約 122%増の約 3 億 5,900 万円の経済効果があったものと推測しています。

年度	利用実績				推定経済効果
	利用団体数	利用件数	利用延べ人数	延利用日数※	
令和 3 年	16	30 件	12,635 人	315 日	約 3 億 5,900 万円
令和 2 年	9	16 件	7,855 人	188 日	約 2 億 9,400 万円
令和 1 年	9	26 件	6,829 人	330 日	約 3 億 5,700 万円
平成 30 年	11	19 件	5,729 人	185 日	約 2 億 3,300 万円
平成 29 年	12	21 件	4,015 人	281 日	約 2 億 2,400 万円
平成 28 年	13	27 件	4,358 人	198 日	約 2 億 1,100 万円
平成 27 年	10	29 件	4,005 人	167 日	約 1 億 7,600 万円

※延利用日数には、IST ロケット射場の利用日数は含まれておりません

### (2) 宇宙交流センターSORA 来場者数

10 月 2 日から土曜日・日曜日・祝日のみで開館した SORA は、11 月 28 日をもって今年度の開館を終了しました。SORA の開館にあたって、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開館時期を遅らせたため、開館期間は 20 日間にとどまりました。

今年度においても、開館日に展示物について解説するガイドを常駐させたことから、来場者の満足感の向上を図ることができました。

今年度の来場者数は 880 人（うち、団体視察等 15 件 404 人）となりました。

年度	来場者数 ※視察人数含む	視察件数	視察人数
令和 3 年	880 人	15 件	404 人
令和 2 年	1,102 人	10 件	358 人
令和 1 年	23,421 人	65 件	1,297 人
平成 30 年	5,777 人	48 件	1,147 人
平成 29 年	4,652 人	54 件	1,038 人
平成 28 年	3,880 人	54 件	1,070 人
平成 27 年	2,531 人	30 件	929 人

### (3) 航空宇宙関連実験

#### ■ 小型飛行ロボット自律飛行制御実験

---

実施団体：電気通信大学情報理工学部 田中研究室

実験期間：4月22日から5月9日、8月6日から31日

実験内容：近年、災害発生時などの極限環境の中でも空からの活用が期待できる無人航空（Unmanned Aerial Vehicle）が注目されています。同研究室では、スマートにミッションを遂行する自律飛行ロボット「スマート飛行体」の開発に関する研究を行っており、平成23年より大樹町で実験を行っております。

今年度も引き続き、低速・低高度でも安全に飛行可能な「パラグライダー型 UAV」、低コスト高パフォーマンスな「固定翼型 UAV」、ホバリング飛行が可能な「垂直離着陸無人機 VTOL」の3種類の機体を使用し、自動離着陸や改良したコントローラによる自動制御、上空からの情報収集などの実験を行いました。



#### ■ 「空飛ぶクルマ」の飛行試験

---

実施団体：株式会社 SkyDrive

実験期間：5月11日から13日、5月27日から7月28日

#### ■ 小型無人機の自律飛行・ミッション性能向上技術の研究

---

実施団体：JAXA 航空技術部門

実験期間：6月16日から27日、7月4日から11日、10月6日から15日、10月25日から29日

実験内容：「固定翼」や「VTOL」無人機は、マルチコプタに比べ高速かつ長距離/長時間の飛行を可能としますが、操縦や運用の難易度が高いため、現時点では本格的な利用には至っておりません。そこで、本研究において、長距離/長時間飛行用の自動化技術及びミッション飛行性能向上技術の開発・実証を目指し、今年度は、「固定翼」においては飛行試験により、自動着陸技術及び飛行計画自動生成機能の評価・改良、「VTOL」においては自動遷移（高速域）及び自動着陸の評価・改良を行いました。

## ■ 観測ロケット「ねじのロケットMOMO7 号機」打上げ実験

実施機関： インターステラテクノロジズ株式会社

実験期間： 7月3日

実験内容： 今回インターステラテクノロジズ株式会社により打上げられた「ねじのロケット」は、昨年の打上げ実験延期から約1年かけて全面改良が行われた観測ロケット MOMO の改良版「MOMOV1」と呼ばれる機体であり、MOMOV1 の機体での打上げは今回が初でした。



当日は天候にも恵まれ、17時49分に打上げられた MOMO7 号機は、宇宙空間である高度約100km に到達し、2度目の打上げ成功となりました。

今回の宇宙空間到達は、観測ロケット MOMO の能力増強やより高い打上げの信頼性を実現し、ロケットの量産化・商業化に向け大きく前進しました。

## ■ 観測ロケット「TENGAロケットMOMO6 号機」打上げ実験

実施機関： インターステラテクノロジズ株式会社

実験期間： 7月31日

実験内容： 7月3日の MOMO7 号機に引き続き今月2機目の打上げ実施となった MOMO 6号機は、17時ちょうどに打上げられ、恵まれた天候の中エンジン音を響かせながら力強く上昇し、高度約92km に到達、打上げは成功となりました。



今回の打上げ実験により、2機連続、合計3度目となる宇宙空間到達を成し遂げました。

また、国内の民間初となる「宇宙空間へのペイロード（荷物）放出と回収」、機体内部からのライブ配信にも成功しました。



## ■大気球実験

---

実施機関：JAXA 大気球実験グループ

実験期間：5月17日から8月25日

実験内容： 今年度の大気球実験では、「極薄ペロブスカイト太陽電池の気球飛翔」と「高精度変位計則装置の実証」、「成層圏における微生物捕獲実験」が行われ、全ての実験が無事終了し、海上に着水した気球及び搭載機器は、大樹町の漁業者のみなさんの協力を得て回収されました。

また、当初予定されていた「火星探査用飛行機の高高度飛行試験」と「気球 VLBI 実験」は、実験計画期間中に気球飛翔運用に適した高層風を得られる見込みがなくなったため、今年度の実施が見送りとなりました。



## ■ドローンの高高度飛行試験

---

実施機関：NTT アドバンステクノロジー株式会社

実験期間：7月12日から14日

実験内容： 上記日程で、NTT アドバンステクノロジー株式会社による「ドローンの高高度飛行試験」が行われました。今回の試験は、誘雷・雷観測に利用するドローン開発のため、対流圏（雷雲の上限）内の飛行実現性を確認するため、高度10kmまでの飛行性能を確認するとともに、雷雲内飛行計画を作成できるデータの収集を目的として実施されました。

本試験では、下記項目について確認しました。

- ・飛行高度と飛行経路、飛行可能時間
- ・低温度（-50℃程度）、低気圧低空気密度（250hPa）での飛行性能確認
- ・現行技術でのドローンでのペイロード推定



## ■ 航空機用新装備品の通信実験

実施機関：ナビコムアビエーション株式会社

実験期間：8月2日から6日

実験内容：GPSや衛星通信を利用した航空機運航支援システムを開発しているナビコムアビエーション株式会社が、モーターグライダーを利用した飛行実験を行いました。

同社は、JAXAのD-NETから技術移転を受け、総務省消防庁が導入している集中管理型消防防災ヘリコプター動態管理システムなどを開発しており、今回は、現在開発中の新機能を備えたシステムの有効性や操作性を確認するため、モーターグライダーを用いて実証実験を行いました。

このシステムは、航空機から送信された情報を地上局のモニターに表示された電子地図上に位置や航跡等をリアルタイムに表示することができ、航行中の複数の航空機の一元的に管理することができます。また、地上局と航空機間で文字メッセージや目的地などの情報通信を行うこともできるため、目的地が明確になる前に出勤し、より早く到着することができます。さらに、現在準備中の新しいイリジウム衛星通信システムでは映像伝送も可能となり、航空機の運航にさらなる安全を提供できると期待されています。

今回の実験は現在開発中の新機能を備えたシステムの有効性や操作性を確認するためのもので、様々な有用な実験データを取得することができました。



## ■ 滑走路異物監視システム性能評価試験

実施機関：国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所

実験期間：8月23日から27日

実験内容：電子航法研究所では空港滑走路の安全性向上と使用効率の改善のため、滑走路異物を自動的に検出する滑走路異物監視システムの研究開発を実施しています。

今回は多目的航空公園において、滑走路異物監視システムの主たるセンサであるミリ波

レーダの評価試験を実施しました。ミリ波レーダの設置高さや、異物の位置・角度を変化させて検出結果を取得し、実際の空港へ設置する際の基準となるデータを取得しました。今回の試験結果を今後の空港施設整備に活用していくために、結果の取りまとめやデータの分析が行われる予定です。



## ■火星衛星探査計画（MMX）搭載 LIDAR EM 性能確認試験

---

実施機関：JAXA 宇宙科学研究所

実験期間：9月6日から10日

実験内容：火星衛星探査計画（MMX）では、火星衛星の起源や火星圏の進化の過程を明らかにすることを目的として、火星の衛星フォボスを観測し、サンプルを採取して地球に帰還する計画です。

レーザ高度計（LIDAR）は、対象天体に向けてレーザを発射して、レーザ光の往復時間を測定することによって、探査機と天体表面との距離（高度）を測定する装置です。「はやぶさ」、「はやぶさ2」にも同型のLIDARが搭載されましたが、MMX搭載のLIDARでは、より高出力なレーザと、より高感度な受信機を使うことによって、測定距離を100km（「はやぶさ2」の4倍）まで延ばしています。特に、受信機は2014年、2015年に大樹町で性能確認試験を行って開発した集積回路“LIDARX”によって高感度化が達成されています。

今回、LIDARのエンジニアリングモデル（EM）の機能、性能等を確認することを目的として、レーザ高度計EMを滑走路上に設置し、滑走路約1km離れた位置に設置したターゲットに向けて1Hzでレーザを照射し、ターゲットを滑走路直線方向に1km付近から数十mまで動かし、レーザ高度計の動作及び性能の確認を行いました。

## ■救難ヘリコプタ用状況認識支援システム（SAVERH）センサ・表示システム飛行実験

---

実施機関：JAXA 航空技術部門

実験期間：10月12日から11月4日

実験内容：JAXA 航空技術部門では、ヘリコプタを使った災害救援や捜索救助を、夜間や悪天候時にも安全に実施できるようにするため、コクピットやヘルメットのバイザにわかりやすく飛行情報を見せる技術「SAVER」を開発しています。今年度は、新方式カメラ：複数カメラの合成による全周囲視界の確保及び同有効性の評価などの課題に取り組みました。

## ■ヘリコプタの安全性・利便性向上 —障害物検知の飛行実験—

---

実施機関：JAXA 航空技術部門

実験期間：10月12日から11月4日

実験内容：様々な地形環境下で救援任務等を行うヘリコプタは、低速・ホバリング時の地形等の地上障害物への衝突事故が多く、衝突を自動回避する技術を確立し、救助活動や物資輸送等におけるヘリコプタの飛行安全を向上させるため、今年度は、障害物マップの作成方法を改良し、その性能向上の確認を行いました。

## ■ 小型超音速実験機関連実験

実施機関：室蘭工業大学

実験期間：11月20日から27日

実験内容： 室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターで研究・開発中の小型超音速飛行実験機「オオワシ2号」の縮小機体（翼幅0.8m、全長2.4m）を用いた「機体にはたらく空気力測定実験」が実施されました。

本試験ではワゴン車の屋根上または前方にオオワシ2号機縮小機体を設置し、滑走路を走行して機体にはたらく空気力の測定を行いました。

大樹町での実験は2023年の実用化を目指した超音速飛行機「オオワシ」の研究・開発の一環として行われており、オオワシは将来的に最高速マッハ2で飛行し、災害時の状況把握や物資輸送などに活躍する予定です。



## ■ 無人航空機の寒冷地飛行試験

実施機関：三菱重工業株式会社

実験期間：1月31日から2月3日

実験内容： 上記日程で、三菱重工業株式会社が寒冷地におけるヘリ型無人航空機の飛行性能データ取得のための飛行試験を実施しました。

国内においてドローンを飛行させる施設が少ない中、低温環境下での飛行性能データや知見を得ることに当町多目的航空公園が貢献しました。

得られたデータや知見は今後のドローン社会実装に向けての開発加速に活かされることが期待されます。



### 3. 講演会・イベント

#### ■ 企業版ふるさと納税寄附金 感謝状贈呈式開催

##### 【第一回】

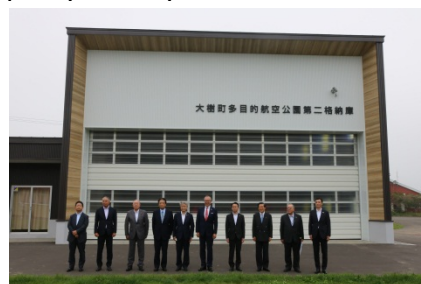
7月12日、大樹町多目的航空公園滑走路内にて、大樹町に対して令和2年度及び令和3年度（6月末時点）に企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業を対象として、感謝状の贈呈式を開催いたしました。

参加企業につきましては下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。

＜株式会社サンケミ、川田工業株式会社、株式会社カルテック、エア・ウォーター北海道株式会社、萩原建設工業株式会社、株式会社奥原商会、西江建設株式会社、株式会社釧路製作所、宮坂建設工業株式会社、ALSOK 北海道株式会社＞

なお、当日の参加が叶わず、後日の贈呈となった企業は下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。

＜株式会社十勝毎日新聞社、税理士法人竹川会計事務所、株式会社 partyfactory、他一社＞



##### 【第二回】

10月13日、宇宙交流センターSORAにて、大樹町に対して令和3年7月から8月までに企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業を対象として、感謝状の贈呈式を開催いたしました。

参加企業につきましては下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。

＜大昭電気工業株式会社、株式会社ズコーシャ、株式会社タチノ、株式会社カナモト、セコム株式会社＞

なお、当日の参加が叶わず、後日の贈呈となった企業は下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。

＜INCLUSIVE 株式会社、株式会社IHI エアロスペース、カタギリ・コーポレーション株式会社、株式会社トライシージャパン、株式会社マウントポジション、他二社＞



## ■大樹エアロスペーススクール 2021（オンライン）

この夏、全国にある JAXA の事業所 5 か所（大樹町、宮城県角田市、茨城県つくば市、東京都調布市、鹿児島県南種子町）ごとに、高校生がチームで協力し「宇宙航空ミッション」に取り組むプログラム「JAXA エアロスペーススクール 2021」がオンラインで開催されました。

大樹町では 7 月 28 日から 30 日の間、「宇宙科学実験の最前線」をテーマに、北は北海道、南は長崎県から 20 名の高校生が参加しました。

28 日に開校式を行ったあと、3 日間にわたり JAXA や SPACE COTAN 株式会社、北海道大学や室蘭工業大学、十勝農業協同組合連合会などによる講義が行われ、オンラインではありましたが大樹・十勝ならではのメニューを学習しました。



## ■北海道宇宙サミット 2021 開催

11 月 4 日及び 5 日の二日間で、北海道宇宙サミット 2021 を開催いたしました。本サミットは、北海道スペースポートの PR を行うことで、多くの方に認知してもらうほか、サミットの開催を通して、これまで宇宙に関わりがなかった企業などが新たに宇宙産業へ参画するなど、宇宙版シリコンバレーの形成に向けた機運醸成を図ることを目的として開催いたしました。

初日は、大樹町内のインターステラテクノロジズ株式会社の工場やロケット射場、北海道スペースポート内にあります宇宙交流センター SORA や滑走路などをインターネット上で紹介するオンラインツアーを実施しました。

二日目は、帯広市内でカンファレンスが開かれ、宇宙分野の開発者や専門家ら 24 人が登壇し、北海道スペースポートの活用や北海道・十勝を宇宙産業の集積地「宇宙版シリコンバレー」とする方策などについて意見を交わしました。当日は現地にて約 450 人が参加し、YouTube でのオンライン配信ではリアルタイム視聴者数が 2,200 人と、非常に注目度の高いイベントとすることができました。

来年度についても、実施方法を見直しながら開催に向けて検討を進めています。



## ■「はやぶさ 2」帰還カプセル特別展示会開催

11月5日から9日までの五日間、大樹町の生涯学習センターにて「はやぶさ 2」帰還カプセル特別展示会が開催されました。宇宙空間でのミッションを終え、地球に帰還したカプセル内部に搭載された電子機器など実機 4点のほか、全長 5.7m もある「はやぶさ 2」の実物大模型が展示され、町内外から合計 1,783 名が来場しました。

また、11月8日には、「はやぶさ 2」の回収運用とサンプルリターンカプセルの技術と題して、JAXA 宇宙科学研究所の山田和彦教授によるリモート記念講演が実施され、大気圏突入時の熱防御システムや着地点予測などの様々な技術についての解説がなされました。

※「はやぶさ 2」について～2014年12月3日に種子島宇宙センターから打ち上げられ、2019年に地球から約3億 km 離れた小惑星「リュウグウ」に着陸し、砂などのサンプルを回収後、カプセルを地球に帰還するミッションを2020年12月に遂行。現在は小惑星 1998KY26 に接近して観測を行う拡張ミッションへ移行しています。



## ■北海道スペースポートトークイベント開催

2月22日、オンラインにて北海道スペースポートトークイベントを開催いたしました。「【宇宙×地方創生】オール北海道で、宇宙版シリコンバレーをつくる」というテーマのもと、行政機関や経済団体、民間企業などの代表者をお招きし、第一部及び第二部に分かれてディスカッションを行いました。

当日は宇宙版シリコンバレーへの思いや期待、大樹町への寄附に至った経緯等についてお話いただき、大変白熱したトークイベントとなりました。



## ■ 翔和学園による巨大ペットボトルロケット打上げ

3月18日（金）に、多目的航空公園にて翔和学園（東京都）の学生11人が中心となり、世界記録樹立を目指した巨大ペットボトルロケットの打上げを実施しました。

当日は大樹町民限定で現地観覧も実施し、平日にもかかわらず10名の方が応援に駆けつけました。今回は全3回の打上げを実施し、残念ながらいずれも失敗、世界記録樹立とはなりませんでしたが、今後大樹町で再挑戦する予定です。



## ■ 北海道スペースポートトークイベント&交流会開催

3月25日（金）、SPACE COTAN(株)主催の北海道スペースポートトークイベント&交流会が帯広市で開催されました（大樹町共催）。第一部のトークイベントは、宇宙エバンジェリスト・Space Port Japan 共同創業者/理事の青木英剛氏による基調講演、株式会社電通地域プロデューサーの森尾俊昭氏による事例登壇、SPACE COTAN(株)代表取締役社長兼 CEO の小田切義憲氏による活動報告の三本立てで実施され、現地に80名、オンラインで80名の参加がありました。第二部の交流会では50名が参加し、様々な企業の方々がこれからの地方創生について熱く議論を交わしました。





## 4. PR 活動

大樹町や北海道の航空宇宙に関する取り組みを PR するため、道内外の航空宇宙関係の展示会やイベントに出展しました。北海道宇宙科学技術創成センター「HASTIC」や SPACE COTAN(株)等と共同で出展し、パネルやポスター、実験機材等の展示、映像放映、パンフレット等の資料配布を行いました。

### ■北海道の宇宙開発展

展示会場：北海道庁本庁舎 1 階道政広報コーナー（札幌市）

開催期間：9 月 6 日



### ■ビジネス EXPO

展示会場：アクセス札幌（札幌市）

開催期間：11 月 11 日から 12 日

来場者数：28,239 人

（現地：20,180 人、オンライン：8,059 人）



### ■メッセナゴヤ 2021

展示会場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

開催期間：11 月 10 日から 13 日

来場者数：36,868 人

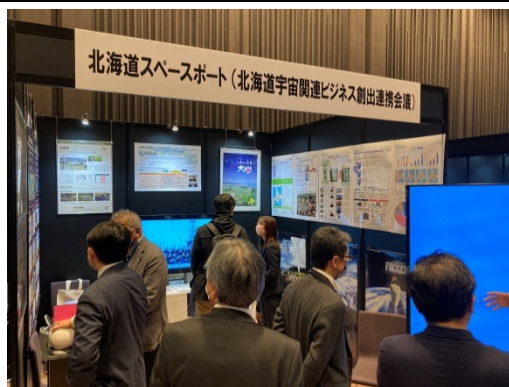
出展者数：840 社・団体



### ■TOKYO SPACE BUSINESS EXHIBITION 2021

展示会場：日本橋三井ホール（東京都中央区）

開催期間：12 月 14 日から 15 日



## 5. 銀河連邦

銀河連邦とは、JAXAの研究施設が縁で交流を始めた5市2町がユーモアとパロディの精神で組織する連邦国家です。銀河連邦では、子どもたちの留学交流事業をはじめ、経済交流、銀河連邦フォーラムの開催などを通じて友好を深めているほか、災害時の相互応援協定を締結しています。

### ■ 第45回 柏林公園まつり

9月19日、大樹町にて町民限定で開催された柏林公園まつりで銀河連邦物産展を開催しました。

普段、大樹町内では購入することができないサガミハラ共和国、ノシロ共和国、サンリクオオフナト共和国、サク共和国、ウチノウラキモツキ共和国、カクダ共和国の6共和国の特産品を販売しました。



発行：大樹町役場企画商工課航空宇宙推進室  
所在地：北海道広尾郡大樹町東本通 33 番地